

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 4 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26360013

研究課題名(和文) インドにおける「非エリート高等教育機関」の調査研究

研究課題名(英文) The Popularized Higher Education in India

研究代表者

佐々木 宏 (SASAKI, HIROSHI)

広島大学・総合科学研究科・准教授

研究者番号：50322780

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,450,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、2000年代以降、大衆化しつつあるインドの高等教育の発展動向とそうした大衆化局面にある高等教育の機能について検討した。前者についての主な知見は以下3点である。まずは2000年代に高等教育は爆発的に拡大したこと、次いでその拡大は学校種別の多様化を伴っていたこと、さらに学校増は私立学校に大きく依存したことである。また、現在の高等教育は社会経済的後進層の社会移動にあまり大きく貢献していないことが、後者についての知見である。

研究成果の概要(英文)：We examined the development of the higher education system in India since the 2000's and the function of that system. The main findings are as follows: In India since the 2000's 1) the number of schools has increased explosively, 2) the types of schools have diversified, 3) private actors have developed as providers of higher education and 4) the popularized higher education does not activate the social mobility.

研究分野：教育社会学

キーワード：南アジア インド高等教育

1. 研究開始当初の背景

2000年代に入り爆発的に拡大したインドの高等教育は、研究開始(2013-14年)の時点で学校数はおよそ5万校、就学者数は3200万人(粗就学率は23%)という、巨大なシステムにまで成長していた。2000年代の高等教育の急拡大は、かつて高等教育から排除されていたノンエリート層(たとえば農村部居住者、女性、低所得・貧困家族出身者、被差別社会集団に属している人々)の教育要求の高まりを受けたものである。

一方で、急速に拡大しつつある高等教育の内実については不明な点が多い状態にあった。その理由は、まずは高等教育に関する良質な公的データベースが未整備であったため、また高等教育の拡大のペースにインド国内外の学術研究のスピードが追いついていなかったためである。とりわけ、近年の高等教育の拡大の有力な支え手である、ノンエリート層が進学する新興学校群(本研究では「非エリート高等教育機関」と呼ぶ)についての知見はほとんどなかった。

2. 研究の目的

このような状況をふまえ、本研究ではまずは以下の課題をおいた。

課題(1)インド高等教育の全体像を、とくに非エリート高等教育機関に焦点をあてて把握すること(本研究に参画するすべてのスタッフの共通課題として。なお研究組織は、補助金申請時は3名で構成していた。)

その上で本研究の3名のスタッフの学術的関心に応じた三つの研究課題をおいた。

課題(2)非エリート高等教育機関の卒業資格の階層上昇・脱貧困への貢献度の検討(研究代表者・佐々木宏の課題として)

課題(3)ノンエリート層出身高学歴者のアイデンティティの検討(研究分担者・針塚瑞樹の課題として)

課題(4)非エリート高等教育機関と労働市場の接続状況の検討(補助金申請時の研究分担者・村山真弓・ジェトロ・アジア経済研究所の課題として)

以上4点の課題に取り組むことが、研究開始にあたって設定した目的であった。しかし、初年度(平成26年度)早々に村山真弓が研究組織からやむを得ない事情で完全に離脱したため、(1)(2)を佐々木が、(3)(4)を針塚が主に担当するという形に役割分担を変更し研究に着手した。

3. 研究の方法

課題(1)については、高等教育機関データベースAll India Survey on Higher Education

のデータ分析という方法をとった。All India Survey on Higher Educationは、インド初の包括的かつ信頼性の高い公的な高等教育機関データベースである。そのデータの一般公開が始まったのがつい最近であるがゆえに、これまでAll India Survey on Higher Educationを使った研究はなかった。

課題(2)(3)(4)に取り組むために、研究代表者(佐々木宏)と分担者(針塚瑞樹)がかねてより調査フィールドとしていたウツタル・プラデーシュ州の都市ワラーナシー(以下、UP州VNS)、インドの首都デリー、タミル・ナドゥ州チェンナイの3地点でのフィールド調査を実施した。VNS調査の実施者は佐々木宏であり、デリー調査とチェンナイ調査の実施者は針塚瑞樹である。VNS調査、デリー調査、チェンナイ調査の概要は以下である。

(1)VNS調査

高等教育機関の経営者や校長に対する聞き取りと高等教育対象年齢層の若者や卒業生に対する聞き取りを実施した。前者では、各学校の概要(入試のあり方、学費水準や奨学金給付の状況、卒業時の進路指導のあり方など)を聞き取った。後者では、高等教育進学/不進学の経緯、進学者のキャンパスライフと卒業時点の進路選択、卒業後の職歴等について、40名の若者たちを対象に3年間にわたって断続的に聞きとった。

(2)デリー調査

(3)チェンナイ調査

VNS調査と同様に、高等教育機関の経営者や校長に対する聞き取りと高等教育対象年齢層の若者や卒業生に対する聞き取りを実施した。聞き取り内容もおおむね同じである。ただし、VNS調査と異なり、若者調査ではデリーの児童養護施設出身の若者に対象を絞った。チェンナイで調査を実施した理由は、調査対象であった若者たちの一部がチェンナイの高等教育機関に進学していたためである。

4. 研究成果

先に述べた研究開始早々の組織変更のため研究遂行がやや遅れ、最終的には課題(3)については十分な成果を得ることはできなかったが、その他の課題については当初の見込み通りの成果があがった。それに加え、当初予想していなかった知見を得ることができた。この知見は、研究代表者のVNSにおける新しい調査研究の「種」となった。以下、想定外の知見も含め、本研究で明らかになった知見をあげる。

(1)インド高等教育の全体像について

All India Survey on Higher Educationのデータを検討し、全インドとVNS県という地域レベルでの高等教育の発展動向を明らか

にした。全インドレベルで明らかになったことは、インド高等教育制度は、学校種別でいえば「被提携力レッジ」、運営形態でいえば私立学校に大きく依存していること、また通信制あるいは遠隔地教育プログラムの規模がかなり大きいことなどである。VNS 県という地域レベルのデータ分析では、2000 年代の高等教育の急拡大が、私立学校主導であったことや特定の職業(たとえば、看護師や教員)にかかわる資格付与コースの増加に支えられていたことなどが確認された。これらの事実は、既に先行研究のなかで断片的に指摘されていたことも含まれるが、包括的かつ信頼性の高い新データに裏付けられた事実という意味で、インド高等教育研究の新知見といえるだろう。

(2)労働市場との接続に欠く非エリート高等教育機関

VNS 調査、デリーおよびチェンナイ調査では、非エリート高等教育機関の多くは労働市場との接続に欠いていることが明らかになった。多くの学校は、企業の求人活動の対象になっておらず、学校側も在学生の就職支援に消極的であった。卒業生の進路情報をとりまとめている学校も少ない。

さらに、非エリート高等教育機関の一部には、通常ほとんど授業がなく、進級試験や卒業試験のみしか実施されていない学校や公文書上存在しているものの閉校している学校など、教育機関としての体をなしていない学校も見受けられた。このことは、All India Survey on Higher Education 他の公的統計や公文書には顕れてこない、フィールド調査でしか確認できない知見である。

(3)深刻な就職難に直面するノンエリート青年

VNS 調査、デリーおよびチェンナイ調査では、労働市場との接合に欠く学校で学び、卒業する若者たちのキャンパスライフや就職活動の具体的な姿が明らかになった。非エリート高等教育機関を卒業した彼らは、何度も公務員試験にトライしたり、別の高等教育機関に再入学し新たな学位をとったり、民間の教育機関で資格をとったり、と就職のための努力を続けているが、多くの者は高学歴に見合う職を得ることができていない。

(4)職業教育学校の可能性

VNS 調査、デリーおよびチェンナイ調査では、非エリート高等教育機関の多くは職業との結びつきがきわめて弱いことが確認された。しかし、非エリート高等教育機関のなかでも職業教育学校(Industrial Training Institutes やポリテクニクス)についてはその限りではないことも同時に確認された。この事実は、研究開始時に予想していなかったため、本研究で計画した調査により収集した情報では詳細な検討ができなかった。そこで、

研究代表者は平成 29 年度から VNS において職業教育学校に焦点をあてた調査プロジェクトに着手している。引き続き調査研究の課題を発見できたことは、本研究の大きな成果の一つである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 7 件)

1. 佐々木宏, インド高等教育の発展動向 高等教育機関データベース All India Survey on Higher Education の検討, アジア経済, 58-1, 査読有, 2017, pp73-96
2. 佐々木宏, 大学は出たけれど 北インド地方都市の高学歴失業青年の困難, アジ研ワールドトレンド, 258, 査読無, 2017, pp4-7
3. 針塚瑞樹, インドにおけるノンエリート高学歴者の職業アスピレーション 工学系私立大学卒業者の事例, アジ研ワールドトレンド, 258, 査読無, 2017, pp8-11
4. 針塚瑞樹, インド都市部における「学校外の子どもたち」に対する平等な教育機会に関する一考察 「無償義務教育に関する子どもの権利法」施行後の特別教育とノンフォーマル教育, アジア教育, 9, 査読有, 2015, pp1-25
5. 佐々木宏, インドにおける高等教育の就業機会 All India Survey on Higher Education 2011-12 をてがかりに, 「学校から仕事へ: インドにおける教育と雇用のリンケージ」調査研究報告書, 巻号無, 査読無, 2015, pp1-18
6. 針塚瑞樹, インドの児童養護施設出身者のキャリア形成における教育の役割 デリー, NGO 施設 SBT の若者事例, 「学校から仕事へ: インドにおける教育と雇用のリンケージ」調査研究報告書, 巻号無, 査読無, 2015, pp19-47
7. 佐々木宏, ポストモダニズムと社会福祉 「近代的なるもの=社会福祉」批判への応答, 教育社会学研究, 94, 査読無, 2014, pp113-136

〔学会発表〕(計 11 件)

1. 針塚瑞樹, 学校化される子ども・若者の身体 アジアの国々との比較から, 日本子ども社会学会第 23 回大会, 2016 年 6 月 4 日, 琉球大学(沖縄県)
2. 佐々木宏, 脱貧困と高等教育 2 年間の調査で集めたデータと「最終成果報告」の構想, 「学校から仕事へ: インドにおける教育と雇用のリンケージ」研究会, 2015 年 12 月 17 日, ジェトロ・アジア経済研究所(千葉県)
3. 佐々木宏, 脱貧困と高等教育, 「学校から仕事へ: インドにおける教育と雇用のリンケージ」研究会, 2015 年 6 月 18 日, ジェトロ・アジア経済研究所(千葉県)
4. 針塚瑞樹, 27 年度の研究経過報告と研究計画, 「学校から仕事へ: インドにおける教育と雇用のリンケージ」研究会, 2015 年 6 月 18 日, ジェトロ・アジア経済研究所(千葉県)

5. 佐々木宏, 脱貧困と高等教育 インドの「田舎のカレッジ」に焦点をあてて, 「インドにおける非エリート高等教育機関の調査研究」研究会, 2015年4月18日, 別府大学(大分県)
6. 針塚瑞樹, インド・デリーにおける児童養護施設出身者のキャリア形成, 「インドにおける非エリート高等教育機関の調査研究」研究会, 2015年4月18日, 別府大学(大分県)
7. 佐々木宏, インドの高学歴失業青年のエスノグラフィー(Timepass)を読む 日本あるいはインドの貧困研究への示唆, 「地方都市における貧困の世代的再生産の構造と政策的対応に関する実証研究」研究会, 2014年12月13日, 北海道大学(北海道)
8. 針塚瑞樹, インドにおける若者の教育と雇用のリンケージ 共同の関係性に着目して, 「学校から仕事へ: インドにおける教育と雇用のリンケージ」研究会, 2014年11月1日, ジェトロ・アジア経済研究所(千葉県)
9. 針塚瑞樹, インドにおける高等教育進学熱と教育格差 筑紫女学園大学アジア塾第3回, 2014年10月16日, アクロス福岡(福岡県)
10. 針塚瑞樹, インド都市社会におけるストリートチルドレンの「自己決定」に関する研究 子どもとNGOの関係性を中心に, 教育の境界研究会, 2014年10月11日, 茨木市福祉文化会館(大阪府)
11. 佐々木宏, インド高等教育を対象にした調査研究の意義と研究の課題, 「学校から仕事へ: インドにおける教育と雇用のリンケージ」研究会, 2014年5月24日, ジェトロ・アジア経済研究所(千葉県)

〔図書〕(計3件)

1. 押川文子, 黒崎卓, 南出和余, フマコン・カビル, 古田弘子, 櫻井里穂, 森下稔, 伊藤高弘, 小原優貴, 針塚瑞樹, 牛尾直行, 小出拓己, 和栗佳代, 井出翔太郎, 日下部達哉, 佐々木宏, 村山真弓, 柳澤悠, 昭和堂, 「学校化」に向かう南アジア 教育と社会変容, 2016, 総頁数 399(針塚瑞樹 pp197-220, 佐々木宏 pp303-320)
2. 岡橋秀典, 澤宗則, 小田尚也, 岡田亜弥, 佐々木宏, 南埜猛, 石上悦朗, 日野正輝, 宇根義己, 友澤和夫, 鋤塚賢太郎, 由井義通, 土屋純, 岩谷彩子, 針塚瑞樹, 森日出樹, 荒木一視, 三宅博之, 東京大学出版会, 現代インド4 台頭する新経済空間, 2015, 総頁数 325(佐々木宏 pp126-129, 針塚瑞樹 pp273-276)
3. 佐々木宏, 押川文子, 南出和余, 小原優貴, 針塚瑞樹(以上、翻訳者), クレイグ・ジェフリー(著者), 明石書店, インド地方都市における教育と階級の再生産 高学歴失業青年のエスノグラフィー, 2014, 総頁数 349(佐々木宏 pp11-67 pp279-310, 針塚瑞樹 pp221-278)

6. 研究組織

- (1) 研究代表者
佐々木 宏(SASAKI HIROSHI)
広島大学・大学院総合科学研究科・准教授
研究者番号: 50322780
- (2) 研究分担者
針塚 瑞樹(HARIZUKA MIZUKI)
別府大学・文学部・講師
研究者番号: 70628271